

トッパンのCSR

社会的価値創造企業へ向けて

トッパンは、社会や地球環境と調和しながら成長を続けるための基本的な考え方や活動の方向性として、「TOPPAN VISION 21」を定めています。これは「企業像」と「事業領域」から成り立っています。

■ 企業像

企業像は「企業理念」、「経営信条」、「行動指針」の3つから成り立っています。企業理念は、トッパンが最も大切にすべき価値観や考え方、目指すべき姿を表しています。経営信条は、実際に企業活動をする際の規範を示しています。行動指針は企業人として社会人としての基本的な考え方や行動のあり方を定めています。

■ 事業領域

2016年度は「事業領域」を見直しました。新たな「事業領域」は、リソースごとに分類された5つの事業系で培ってきた「技術・ノウハウ」と「市場・顧客」から成り立っています。この「市場・顧客」には、今後重点的に取り組むべき成長領域として「健康・ライフサイエンス」、「教育・文化交流」、「都市空間・モビリティ」、「エネルギー・食料資源」を設定しました。

トッパンのCSR活動

トッパンは、「国連グローバル・コンパクト」を原則とし、組織の社会的責任に関する国際規格「ISO26000」を指針として活動を進めています。「ISO26000」は、組織が

取り組むべき事項として、組織統治、人権、労働慣行、環境、公正な事業慣行、消費者課題、コミュニティへの参画およびコミュニティの発展からなる「7つの中核主題」を掲げています。

■ SDGsの達成に向けた取り組み

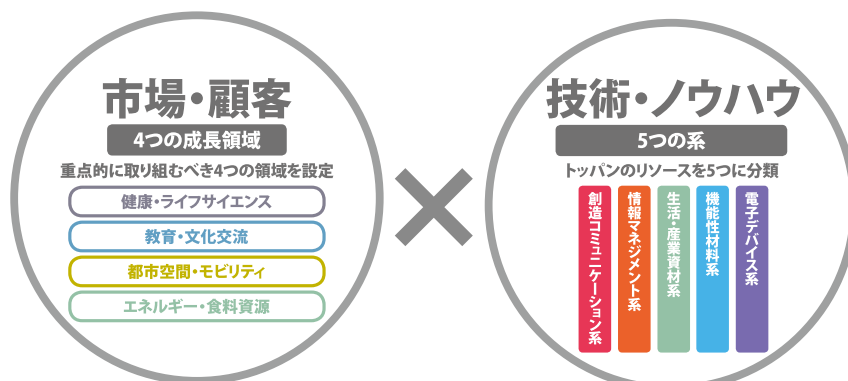
2015年9月の国連総会において、世界共通の開発目標である「持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)」が、日本を含む世界193カ国で採択されました。SDGsは、2030年までに国際社会が解決すべき社会的課題として17の目標と169のターゲットが体系化されており、課題解決には企業の積極的参加が期待されています。トッパンは、このSDGsをCSR活動の中に目標として取り入れて活動を推進し、社会的価値創造企業になることを目指していきます。

■ 重要なテーマ(マテリアリティ)

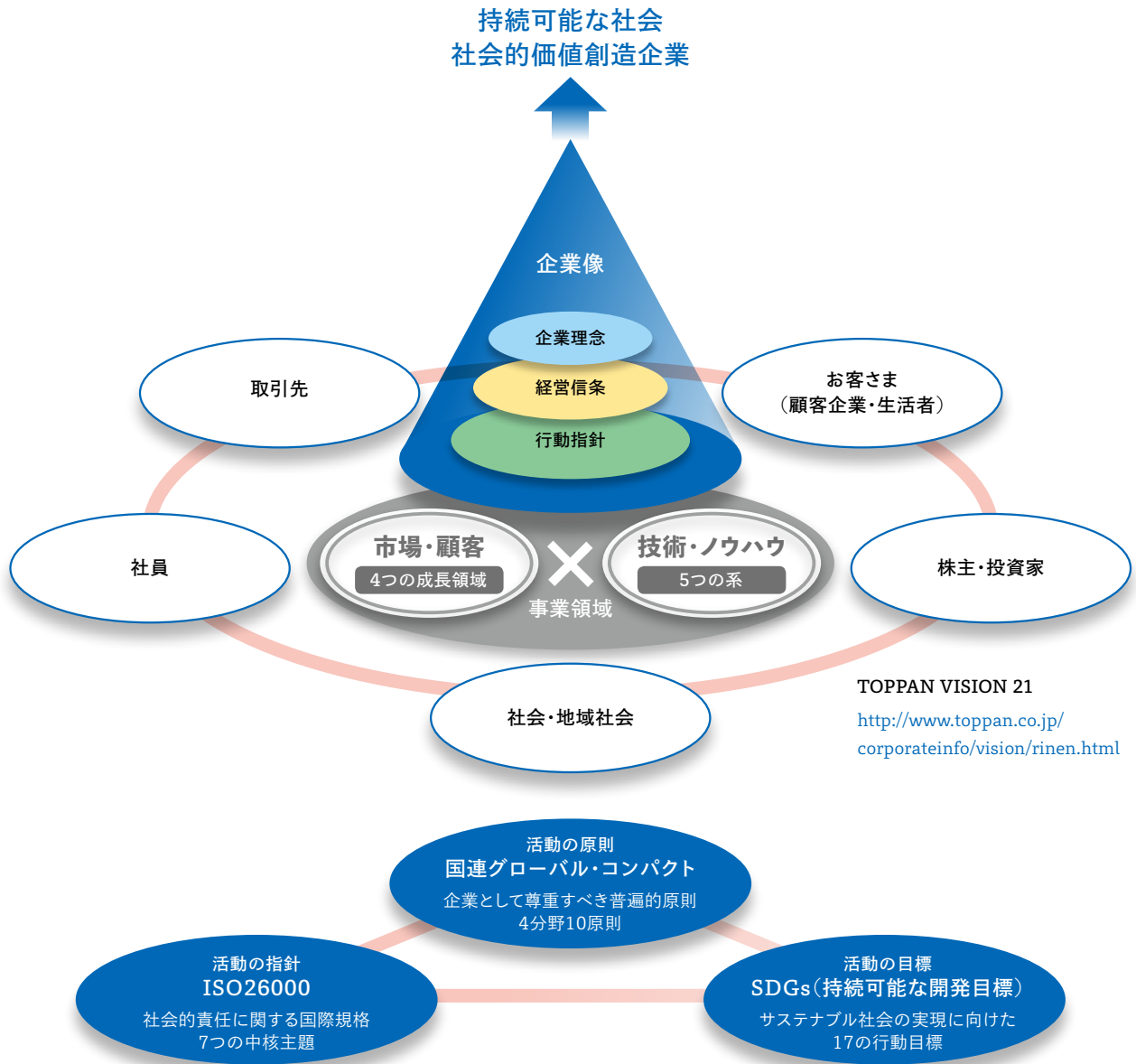
トッパンはこれまでに、ISO26000の7つの中核主題をベースに「ステークホルダーの評価や意思決定への影響」と「トッパンが経済、環境、社会に与える影響」の2軸で評価を行い、人権、人財育成と多様性、環境、バリューチェーンでの社会的責任推進、プライバシー(個人情報保護)を重要性の高まるテーマと特定してきました。

今後は、トッパンの企業活動および新たに策定した「事業領域」とSDGsとの関連性を分析し、SDGsの17の目標の中からトッパンが取り組むべき重要なテーマ(マテリアリティ)を抽出し、その達成に向けたロードマップを2017年度に策定していきます。

■ トッパンの新事業領域



■ トップパンのCSRの考え方



■ ISO26000をベースとした重要なテーマ

